作品との対話～博学連携のたとえば～

谷野和美[1]・木村信一郎[2]
[1]鳥取大学附属中学校　美術科
[2]鳥取市立南中学校　教諭
E-mail: tanino_k@tottori-u.ac.jp

[1] **TANINO Kazumi** (Tottori University Junior High School), [2]**KIMURA Shinichiro** (Tottori City Minami Junior High School):Conversation with works ~for example, in collaboration with museums~

要旨 ー 美術の専門性の向上のため,博物館との連携の可能性を探った。また,鳥取の美術作品を鑑賞することで鳥取の美術文化に関心が高まり,郷土愛が育まれると考え実践した。授業では博物館が所有する鑑賞ツール Walk View を使用し,鑑賞への興味関心が高まったと考える。

キーワード　鑑賞,対話,鳥取の美術,Walk View

Abstract —　We explored the possibility of collaboration with museums to enhance art expertise. In addition, we put into practice the idea that appreciation of Tottori's art works would increase interest in Tottori's art culture and foster a love of our hometown. In class, we used Walk View, a viewing tool owned by the museum, and we believe that interest in viewing art increased.

Key words — appreciation,dialogue,Tottori art,Walk View

1. はじめに

美術教員は大規模校などを除いて,ほとんどが各校に 1 人,小規模校や義務教育学校では 2 校以上の学校を兼務している場合がある。近年では,教員不足もあり,大学を卒業して採用され美術の授業を担当することもある。地域ごとに美術の研究部会は開かれ,情報交換や研修などが開かれるが,美術教員が一人で悩むことがほとんどだと思われる。そこで,少しでも美術教員の専門性を向上させるためや悩みの解消につながればと,博物館と連携して授業を行った。2025 年の春には県立美術館ができ,「アートを通じた学び」を支援するアート・ラーニング・ラボ（A.L.L）等の教育普及部門が充実することから, 積極的に連携したいと考えた。

美術科では表現の活動と鑑賞の活動がある。2 年生の美術の授業の年間 35 時間では表現の活動が多くなり,鑑賞活動は制作時の導入だけや,時間を取れないことが多い。そこで,鑑賞活動を充実させる方法はないかと考えた。鑑賞の際には博物館所有の鑑賞ツール Walk View を使うことで,鑑賞への意欲や関心を高め,作品を見る力を養えると考える。さらに,美術鑑賞に苦手意識を持つ生徒に対しても Walk View は効果的ではないかと考える。

また,生徒はピカソやモナ・リザ,葛飾北斎など有名な美術作品や作家は知っていても鳥取県で活躍した美術作家を答えられない場合が多い。そこで,絵画を見て深く考え鑑賞する活動と,鳥取県の美術作家について興味を広げる授業実践をと考えた。この授業実践は 2022 年度まで本学校の美術科で勤務しておられた木村信一郎教諭の研究を引き継ぐ形で,筆者が授業展開を考えたものである。

2. 授業実践

2.1 作品について

本題材は 2 年生を対象に 1 時間の計画で行ったものである。鑑賞する作品は鳥取県出身の日本画家の土方稲嶺の「風雪三顧図」161.8×85.0 文化三年(1806 年)(図 1)で,日本画材で描かれた掛け軸の作品である。描かれている場面は,諸葛孔明の下を中国の武将である劉備達が三度にわたって訪れた三国志の三顧の礼に由来しており,目上の人や年上の人が,目下の人や年下の人に対して心から敬意を払って,仕事や物事を頼む故事成語にもなっている。土方稲嶺の「風雪三顧図」は雪が降っていることから, 劉備達が諸葛孔明の

ところへ二度目に訪れている場面だと推察される。

図1　土方稲嶺「風雪三顧図」

2.2 Walk View について

Walk View は鳥取県立博物館が所有する鑑賞ツールである。この鑑賞ツールはもともと,大日本印刷株式会社が開発し,2015 年,安東恭一郎・畑山理央による共同研究で,教育用デジタルツールとして再構築されたものである。このツールは,鑑賞者の動きに合わせて,画面上の作品の手前の描写が移動し,鑑賞者はあたかも作品に没入するかのような感覚で作品鑑賞を可能とするものである。2017 年より鳥取県立博物館と共同企画・運営により実践が始まっており,この鑑賞ツールの開発に携わった安東は以前本校に美術教員として勤務しており,教育現場での普及を強く願っていた。先行研究として畑山ら(2020)は,博物館内での教育的効果を示している。

図 2　Walk View で作品鑑賞する様子

2.3 授業の実際

今回実施した授業の流れを下にあげる。(図3)Walk View が一人の鑑賞者の動きに合わせて連動するので,Walk View だけではなく,様々な方法で鑑賞をさせた。8 班をグループ分けして 4 つの方法でローテーションし鑑賞することを試みた。(表 1)それぞれの鑑賞方法のよさやねらいを下にあげる。(表 2)作品に物語性があることや多様な視点で鑑賞できるように,個人(作品を見て気付いたこと)→班(意見の共有)→個人(作品を見て物語を考える,ふりかえり)のワークシートを作成した。(図4)

学習活動	○主な発問・予想される生徒の反応	・留意点　○評価【観点】(方法)※手立て	時間
1. 学習のめあてを確認する。	○活動のルールを確認する。	・答えはなく、様々な見方や感じ方があること、人の意見を否定しないことなどを確認して、発言しやすい雰囲気をつくる。 ・班で一人 Walk View を体験する人を決める。	3/3
◎対話を通じて作品の世界を深く味わおう。			
2. 土方稲嶺の「風雪三顧図」を見て、気づいたことや感じたことを伝え、班で共有する。	○この作品に何が描かれているか、ワークシートに書き出そう。 ・人、馬、川、橋、雪が降っている	・スライドに表示された作品を参考に作品に描かれているものを整理させる。 ・少人数で意見を交わし、作品の見方を深める。 ・Walk View を体験させ鑑賞する視点をつかませる。	5/8
3. 様々な方法で作品を鑑賞する。	○Walk View、原寸大のレプリカ、タブレットの画像、印刷物から作品を鑑賞しよう。 ・奥に家が見える。 ・木の雪のつき方から風がこちらから吹いている。 ・人物にだけ色がついている。	・様々な鑑賞教材をローテーションで鑑賞させる。 ○主体的に作品の本質的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫などを考えるなど、見方や感じ方を深め積極的に学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 (観察、ワークシート)	16/24
4. 班で作品の理解や見方を共有する。	○見えたもの、ことを班で伝え合い、自分の気づかなかった見方や考え方をワークシートに記入しよう。 ・人物それぞれの姿・表情が分かる。 ・水墨画の濃淡の表現を知る。	※意見交換の中で友達の考えを受け止め、考えに近いものを記入するように指示する。	5/29
4. 作品の物語とその根拠を考える。	○見えたもの、ことからこの作品の物語を考えよう。 ・この 3 人の関係は ・この雪の中、でかける理由は…	・ワークシートに書いた、自分や班員の「見えたもの、こと」を根拠の参考にするよう促す。	6/35
5. 物語を発表する(班→全体)	○班で共有した意見を発表しよう。 ・班の中でみんなが納得した物語を発表する。	・時間があれば作品の題名も考えさせる。	10/45
6. まとめ、本時の振り返りをする。	○今日の活動を振り返ってみよう。 ・作品を見る新たな視点を見つけることができた。	・ワークシートの項目に記入されて、この体験を一つにこれから出会うべき作品との対話・学びを楽しむことを抑える。	5/50

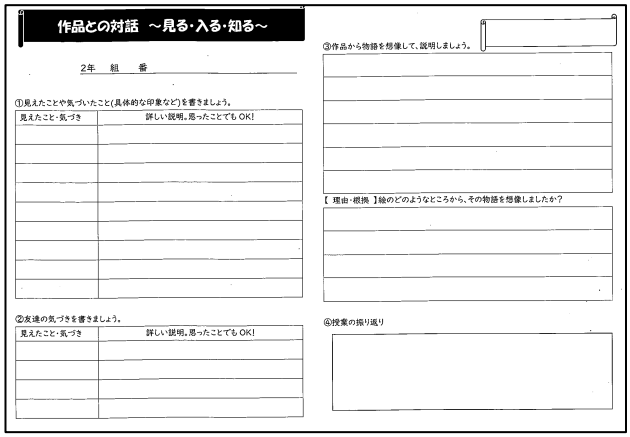
図 3　授業の流れ

表1　鑑賞方法

A	Walk View
B	実物大のレプリカを鑑賞する。
C	タブレットに送信した作品を鑑賞する。
D	A3 サイズの作品をラミネートしたものを鑑賞する。※1 人に 1 枚配布する。

表 2 それぞれの鑑賞方法のよさやねらい

A	没入感があり,作品の中に入ったような体験ができる。
B	教科書やプリントでは表せられない実際のサイズから受ける印象を感じることができると考える。
C	気になる部分を簡単に拡大できる。1 人 1 台タブレットがあるので,気になるところを細かく見られる。
D	容易に準備ができ,このような方法で鑑賞させることが多いと思われる。今までの鑑賞方法と比較するために,ラミネートした作品の鑑賞を設定した。


作品との対話 ～見る・入る・知る～

2年 組 番

①見えたことや気づいたこと(具体的な印象など)を書きましょう。

見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!

②友達の気づきを書きましょう。

見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!

③作品から物語を想像して、説明しましょう。

【 理由・根拠 】絵のどのようなところから、その物語を想像しましたか?

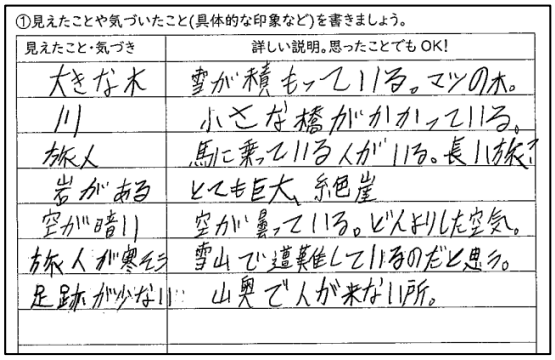
⑥授業の振り返り

図 4 本単元のワークシート

2.4 生徒の記述より

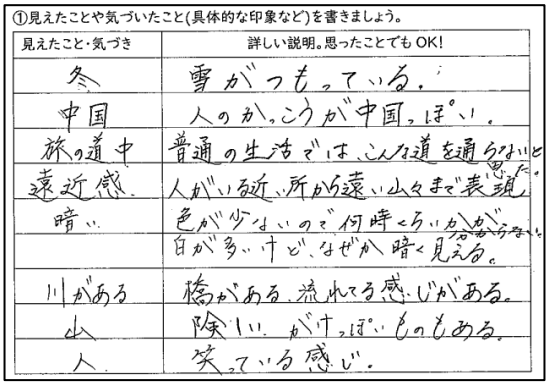
生徒の書いたワークシートを見ると,描かれているものを探す活動(個人)では, 4 つの鑑賞の方法を通して描かれている様々なものに気づくことができた。(図 5・図 6) 個人の意見を班で共有するところでは,一人では発見できない足跡や表情などの細かな部分にも注目することができた一方で,活動時間が少なく班で深めることができず,あまり書かれていなかった。(図 7・図 8)

個人での気づきや班で共有したことを基に各自で物語を考える活動では,思い思いの話を考えることができた。(図 9・図 10) 授業をした 2 年生は 1 年時でも別の作品で Walk View を体験しているが, 2 度目の Walk View での作品鑑賞でも作品を見るうえで新鮮に感じる生徒が多かったことが振り返りからうかがえる。(図 11・図 12)Walk View を使うことで,背景などの細かい部分や遠景・中景・近景を意識して鑑賞ができ,描かれている主題だけではなく,水墨画の技法や遠近法などの技術面も注目して作品を見ることができた。


①見えたことや気づいたこと(具体的な印象など)を書きましょう。

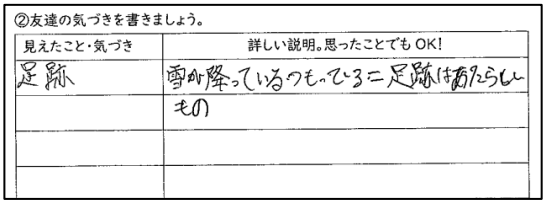
見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!
大きな木	雪が積もっている。マツの木。
川	小さな橋がかかっている。
旅人	馬に乗っている人がいる。長い旅?
岩がある	とても巨大、絶壁
空が暗い	空が曇っている。どんよりした空気。
旅人が寒そう	雪山で遭難しているのだと思う。
足跡が少ない	山奥で人が来ない所。

図 5 生徒の記述(個人)1


①見えたことや気づいたこと(具体的な印象など)を書きましょう。

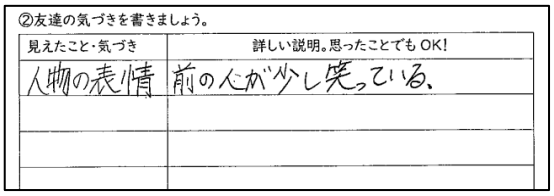
見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!
冬	雪がつもっている。
中国	人のかっこうが中国っぽい。
旅の道中	普通の生活では、こんな道を通らないと
遠近感	人がいる近い所から遠い山々まで表現した。
暗い	色が少ないので何時ごろかがあまりわからない。
	白が多いけど、なぜか暗く見える。
川がある	橋がある。流れてる感じがある。
山	険しい。がけっぽいものもある。
人	笑っている感じ。

図 6 生徒の記述(個人)2


②友達の気づきを書きましょう。

見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!
足跡	雪が降っているつもってる=足跡はあったらしいもの

図 7 生徒の記述(班)1


②友達の気づきを書きましょう。

見えたこと・気づき	詳しい説明。思ったことでも OK!
人物の表情	前の人が少し笑っている。

図 8 生徒の記述(班)2

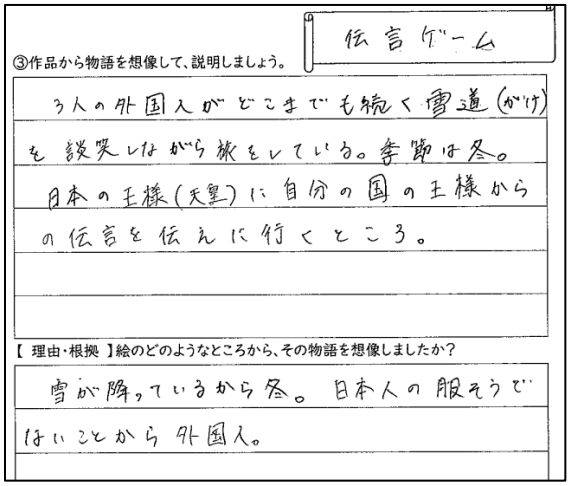

③作品から物語を想像して、説明しましょう。
伝言ゲーム
3人の外国人がどこまでも続く雪道(がけ)を談笑しながら旅をしている。季節は冬。日本の王様(天皇)に自分の国の王様からの伝言を伝えに行くところ。
【理由・根拠】絵のどのようなところから、その物語を想像しましたか?
雪が降っているから冬。日本人の服そうではないことから外国人。

図 9 生徒の記述(物語を考える)1

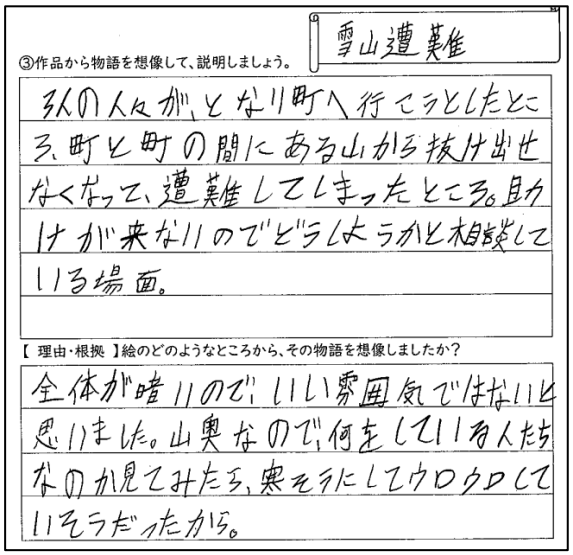

③作品から物語を想像して、説明しましょう。
雪山遭難
3人の人々が、となり町へ行こうとしたところ、町と町の間にある山から抜け出せなくなって、遭難してしまったところ。助けが来ないのでどうしようかと相談している場面。
【理由・根拠】絵のどのようなところから、その物語を想像しましたか?
全体が暗いので、いい雰囲気ではないと思いました。山奥なので、何をしている人たちなのか見てみたら、寒そうにしてウロウロしていそうだったから。

図 10 生徒の記述(物語を考える)2

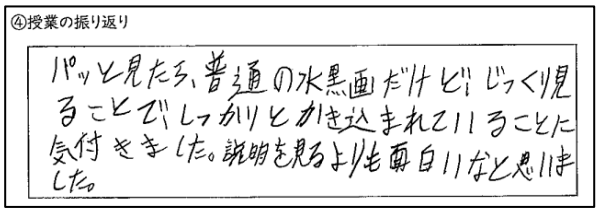

④授業の振り返り
パッと見たら、普通の水墨画だけど、じっくり見ることで、しっかりとかき込まれていることに気付きました。説明を見るよりも面白いなと思いました。

図 11 生徒の記述(ふりかえり)1

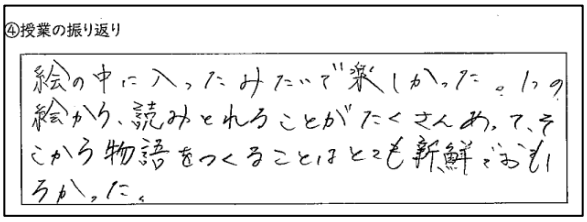

④授業の振り返り
絵の中に入ったみたいで楽しかった。1つの絵から、読みとれることがたくさんあって、そこから物語をつくることはとても新鮮でおもしろかった。

図 12 生徒の記述(ふりかえり)2

3 まとめと今後の課題

3.1 授業後 研究協議会より

参観者からの意見を列記する。

・生徒が対話している内容,様子から考えが広がっている。「足跡」に気づいた生徒から他の生徒が広げていく。

・「三顧の礼」という画題をどう生徒に理解させるか。

・印刷物の色合いが重要。どう実物に近いものを提示すべき。

・生徒同士の話し合いがほとんどなく,絵を深めることができていないのでは。

・表現の意図や創造的な表現の工夫について考える場面が生徒同士で共有されていない。子ども同士の交流や共に考ええる場面をつくる。

・子どもたちのつぶやきの中にたくさんの気づきの種があったのでは。

3.2 実践の授業や研究協議会を受けて

鳥取の美術に関心を向けさせたいとねらいに位置付けたが,作品の中に入って見ることで十分な授業になると分かった。単元構成を検討し,前時もしくは次時に鳥取県の美術の展開や土方稲嶺について詳しく学んでいくような展開を考えたい。

4 つの鑑賞方法にそれぞれよさがあった。Walk View による鑑賞では,鑑賞方法が画期的で美術作品に関心がない生徒も体験することを通じて作品を読み解くとこができると感じた。Walk View を実際に体験する人は一人であり,1 時間の授業の中で全員が体験することは難しいが,周りで見ている人も作品の中に入ったように体験者と一緒になって鑑賞することができた。

実寸大のレプリカでは,掛軸の表装まで再現されており,本物に近い作品の迫力を感じることができた。タブレットに作品を送信した場合では気になるところを拡大することができ,細かなところまで気づくことができた。プリントでは作品全体を鑑賞でき,じっくりと鑑賞できるよさがあり,授業者が用意するうえで簡易的に用意できるのではないかと思われる。作品をラミネートしたものでも,鑑賞はできたが,Walk View や原寸大のレプリカの鑑賞は,普段はやっていない鑑賞方法で,生徒の関心は高まっ

ていたようだ。

3.3 今後の課題

今回の実践では,生徒の意見を全体に共有する場面がなく,班の中でしか共有できず,せっかくの一人一人の気づきを広げることができなかった。これは授業者がファシリテーターとしての役割を理解しておらず,沈黙の時間や生徒が意見を言ってくれるか,その意見を全体に広げられるかどうか恐れてしまったことが原因である。その後,ファシリテーターの研修を博物館の企画で参加する機会があったが,技術は理解することができても，実際に何度も経験を積むことでファシリテーターの技術が向上するのではないかと考える。

木村教諭が 10 月に鳥取市立南中学校の 3 年生を対象に Walk View を使った授業を行った。扱った作品は沖探容の「四季富士図」である。その後の生徒のアンケートでは,「自分の言葉で伝えることができたか。」「自分と同じ意見や違う意見を注意深く聞くことができたか。」「自分なりの意見を持つことができたか。」「作品の見方が広がったか。」の 4 つの項目に対して肯定的な意見が多かった。このことからも,Walk View を使うことでより深まった鑑賞授業が行えると考える。

実際に博物館と連携して,鑑賞ツール Walk View を使った授業ができたり,鳥取の美術を扱うにあたり,専門的なアドバイスをもらい,今までにない視点で授業を考えたりすることができた。県立美術館が誕生するにあたり,これからも博物館と連携していき様々な可能性を模索していきたい。

参考文献

木村信一郎「美術科の「やりくり」のたとえば～「作品との対話」－多様な視点で物事を見つめ，その世界観を深める力～」鳥取大学附属中学校研究紀要,2023 年（鳥取）

畑山 未央,佐藤 真菜,結城 孝雄,村上 尚徳「教育普及ツールとしての“Walk View”の意義」『環境芸術㉔2020』.環境芸術学会,2020 年（東京）

文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編」.文部科学省，2017 年（東京）

文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術」.文部科学省国立教育政策研究所，2020 年（東京）

畑山 未央,佐藤 真菜,結城 孝雄,村上 尚徳「教育普及ツールとしての“Walk View”の意義」『環境芸術㉔2020』環境芸術学会,2020 年（東京）